

2025年
2月1日
第492号



JR東海労

http://jrtoukairou.sakura.ne.jp/



〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-6-5

TEL 03-3201-0350 FAX 3201-0351

Eメール jrtoukairou@yahoo.co.jp

J R 東海労働組合

発行人 淵上 利和
編集人 高山 浩



新幹線地本は1月11日、新春旗開きを開催しました。

伊藤委員長は、年頭所感で「昨年のJR総連旗開きの前に山口委員長から淵上委員長に『関西地本を切れないか、新しい組織をつくれぬか』と言われ、淵上委員長は当然拒否した。この間のJR東海労の運動が何ら間

JR総連・一部OBによる組織破壊攻撃粉碎！ 新たな労働運動のスタートを確認！ 各地本旗開きが成功裡に終了

各地本は1月、2025年新春旗開きを開催しました。

各地本とも、委員長の念頭所感で、「JR総連や一部OBによる組織破壊攻撃がされた。JR総連は、JR東海労の除名を決める前に、セントラル労働組合（センラ）の組織化を行った。産別が加盟組を潰そうという行為は、前代未聞である。断じて許してはならない」「私たちは、職場から闘い、組織展望を切り拓こう」と訴えました。

新幹線地本

違ったものではなく、JR総連からそのようなことを言われる筋合いはない。私たちは、数年前から組織展望を論議してきた。その結果、関西の地でJS労が結成された。JR総連は、最初から除名ありきで、JR東海労に傷をつくるためだけに、JRセントラル労働組合をデッチ上げた。組織破壊に加担した森下氏、田村氏、薮氏の査問委員会を設置した。新幹線地本OB会は、会則を変更して私たちと袂を分かとうとしている。データメを許さない。私たちと方向性が一致するOB会員の再結集を図るため、今後取り組みを強化する。診断書強要行政訴訟裁判の闘いは11月28日、中労委命令を取消すという完全勝利判決を勝ち取った。今後もJR東海会

社の労働組合軽視の姿勢を糾すために闘いを更に展開しよう。会社は、リニア建設のため経費を生み出すために必死である。それが業務改革である。相次ぐ効率化＝要員削減は加速の一途をたどり、仕事は年々きつくなり、賃金抑制、関連会社への経費削減が続いている。リニア建設は即時に中止するべきである。ストップ・リニア！訴訟の仲間をはじめ、今後もリニア建設反対の市民・団体と連帯をつくり出していく。JS労結成の闘いに学び、組織の強化・拡大を勝ち取るため、今後の地本運動を発展させる議論を展開しよう」と訴えました。

委員長が「労働組合の未来のために」と題して講演を行いました。

柳楽委員長は、講演で「JR東海の子会社という職場生産に立って、労働条件、労働環境を少しでも変えなければならぬ」と決意し、JS労を結成した。正規社員と比較し、非正規である契約社員やパート社員の賃金は格段に劣る。同じ作業をして、なぜここまで格差が生まれるのか。このような現実を知り、契約社員やパート社員という弱い人の立場に立たなければならぬと強く感じました。しかし、新組合結成まだには数多くの障壁があった。それは、組織の形式、組合規約の作成、規約に基づく意思決定機関の組成、予算の編成などのプロセスを履践する必要がある。そのため、労組法の学習を行い、二重加盟が可能なのかについて、大阪府労働者センターに何度も足を運んだ。その結果、二重加盟は法的には何も問題がないということが分かり、その道で検討した。新労組の結成は、本部方針を具現化したもので、2018年の『職場討議資料』に基づくものである。年間休日の問題や労働協約締結の問題など、これか



静岡地本は1月24日、新春旗開きを開催しました。

半場委員長は、年頭所感で「地本OB会此田会長の挨拶について、地本大会後に要請した説明の求めに応じない、JR総連からの除名に伴い三役とも確認したOB会員への情報等の配布を履行していない、静岡運輸区分会OB総会の『JR東海労と共に』のスローガンを保留としたままにしていることから断りした。地本は、平和・人権・民主主義を守る闘い、リニア建設反対の闘いを中心に取り組んだ。『浜松 袴田巖さんを救う市民の会』と連帯し、無罪を勝ち取った。今後は、天竜林業高校事件の北川

静岡地本

各班の決意表明では、運輸所班から木下さん、地区班から小島さん、車両所班から佐藤さんが今年の闘う決意を述べました。

好伸さんを支えるために闘う。地域で連帯の闘いを進め、組織拡大を目指す。一部のOBによる妨害を跳ね返し、当たり前の労働運動を展開しよう」と訴えました。

来賓には、本部より淵上委員長、齊藤副委員長、畑野副委員長、高山副委員長、本橋書記長、名古屋地本松山委員長、本部OB会増田会長が参加しました。

松山委員長から、「JR東海労働運動の炎を灯し続けるために」と題した講演を受けました。松山委員長は「1月にY氏から『JR総連派の組合をつくってくれないか』と言われた。JR総連青年協議会での山田氏、森下氏と私の3人で、JR東日本で懲罰的日勤教育が相次いだ問題で、JR東海労のような闘いはできないかと問題提起した。青年協では、職場問題よりも、平和問題が一番だと言われた。その頃から、JR総連の運動に疑問を持ち始めた。脱退した萩野前委員長は、リニアの水涸れの調査に消極的だった。脱退後は、萩野氏、加藤正利氏、越坂氏は30歳も年下の私と話しすらいけない。リニア建設は

【2面に続く】

遅れに遅れている。10兆円プロジェクトが10年遅れたら会社は持たない。そうすると社員にいわゆる「せがくる」中居問題を契機にフジTVの労働組合の組合員は6倍にも拡大した。JR東海にも同様のことが起きる可能性がある。私たちは、新しい

名古屋地本

名古屋地本は1月18日、新春旗開きを開催しました。



スタートを切った。広範囲な組織拡大を目指す「と、JR総連が労働運動に真面目ではない実態と、私たちの方向性について提起しました。基調提起の後、OBから組合員になった渥美さんが決意表明を行いました。

地本からも脱退者が出た。これは計画的であり、少なくとも昨年1月の時点で動きが確認されていた。JR総連は2029年にJR西労、JR東海労を解散させるという無茶苦茶な方針を裏で掲げた。極めて前時代的行為だ。OB有志が3通の文書を発出した。その1では、JS労結成における本部指導について記載されていた。近畿地協定期委員会においての組織破壊行為は無く、一方的に組織破壊行為が繰り返されている。この件については真実を明らかにすべく、津崎裁判として闘っている。裁判所から次回からWeb会議で行いたいの連絡があったようだが、JR総連は何かやまし事があるのか。堂々と口頭弁論をやれば良い。また『東海労は賃上げ、物価高、税金、生活苦の問題に取り組みない』と記載があった。名古屋地本は春闘を取り組めばおかずを減らせば良



い」と言った荻野氏に、有志は応えるべきだ。セン労を支えるのなら、退会した上で新たにつくれば良い。JR総連からの

新幹線関西地本

新幹線関西地本は1月13日、新春旗開きを開催しました。

笹田委員長は、年頭所感で「労働組合の存在を心よく思わない経営者たちは、団結を破壊し労働組合の力を弱めようと隙を狙っている。従って、産別組織が加盟単組を分



呪縛から解放され、私たちのJR東海労働運動をつくれる日が来た。職場からの闘いを原点に、JR職場、関連会社、地域運動をOBの皆さんと共につくろう」と訴えました。

来賓には、本部より淵上委員長、畑野副委員長、高山副委員長、地本OB会林会長が参加しました。

第二部では、退職者御苦勞様会を行いました。上田和宏さん、中西健二さん、湯浅朝四さん、鈴木時久さんの鉄道人生の苦勞を労いました。

断・分裂させるといふ決してやってはならないことをJR総連は行った。JR総連からの組織破壊攻撃を許さず断固闘う。その一つが津崎裁判闘争である。津崎裁判では、誰が私たちをJR総連から排除しようとしたのか、誰が津崎議長に嘘の報告書を作成させたのか、それを明らかにすることを通じて、組織破壊攻撃を跳ね返し共に闘う仲間を拡大する。第2回口頭弁論で、JR総連と連携した舟山守夫氏が津崎議長に指示し、デッチ上げ、作成させたものが津崎文書であると言うことを明らかにした。第三者機関を活用した闘いで、それぞれの裁判では不当判決だが、多くの成

果が出ている。新たに提訴したのが休憩裁判である。今後も職場の具体的な問題を取り上げ、創意工夫した闘いを展開する。9条連近畿事務局会議で、共同代表の佐々木さんと舟山さんが「新幹線関西地本は9条連近畿事務局会議に参加すべきではない」と主張したという報告を受けた。明確な見解を求める必要があると判断し、書面で申し入れを行った。しかし、三度の申し入れについて、回答はなかった。地本は9条連近畿の団体加盟をやめることとした。JS労の仲間と連携し、東海の地に労働運動の灯を消さないために更に奮闘しよう」と訴えました。

来賓として、本部より高山副委員長、成田委員長、畑野副委員長、JS労より前田書記長、地本OB会井村会長が参加しました。続いて、萩原さんより「M主義なきM組」よ、さらば!「エピソード」が語る真実」と題して講演を受けました。

講演で、萩原さんは「山王(JR総連などの役員の住居)にいた頃、京力氏や堀口氏(現ひがし労)と『ゲバラ』という名の情報交換の場をつくった。JR総連を支配しているM組は、今は無きゲバラを存在すると決めつけ、対ゲバラとして党派競争を行っている。JS

労をつくったのが京力・萩原だから、JS労を認めない根拠となつていく。JS労結成で一番困るのが会社・権力ある。JR総連・M組は、権力の意思を受けて、私たちが攻撃してきている」と

OB会新体制確立!

旧OB会役員は総会開催を放棄し退室

本部OB会第23回臨時総会が1月23日に開催されました。13時15分43分まで、傍聴者の入室をめぐり、会則の改正に賛成して本部OB会の解散を目論むOB会役員、参加者らは「出ていけ」などと、常識的には考えられない対応に終始し、論争となりました。

OB会員ならば誰でも総会に参加する権利があり、しかも空席があるにもかかわらず、福島会長、伊林事務局長は、一方的に「幹事会決定だ」「会長



組織破壊攻撃の構図を説明しました。各分会の決意表明では、運輸所分会から名倉分会長、地区分会から下茂分会長、車両所分会から山本書記長が今年の闘う決意を述べました。

の判断に協力してくれ」と、JR東海労を支持するOB会員のみに対して退室を強要しました。そして、福島会長は「大挙して押しかけた。これじや総会をやれない。今日の総会は開催しない」と宣言して、JR総連・セン労を支持する人たちは退席しました。

会則に則り本部OB会の存続を求める参加者は会場に残り、総会を継続しました。JR総連・セン労を支持する役員は、本部OB会を解散する計画でしたが、良識派がOB会解散を阻止しました。継続総会では、新役員として会長に増田豊重さん(静岡地本)、事務局長に井村厚さん(新幹線関西地本)、会計監査に加藤誠二さん(名古屋地本)を選出し、全体で確認しました。副会長については、各地本OB会が選出することになりました。